# 障がいのある人が周りに伝え、気が付いた人が自然と助ける。そんな温かい社会へ

***今回表紙に登場していただいた能瀬仁美さんと智成君へ、障がいのある人への差別について感じていること、思うこと、伝えたいことを聞きました。***

取材前に仁美さんとの約束をそっと教えてくれた。「ちゃんと取材を受け終わったら、ハンバーガーを食べに行くんだよね。」と嬉しそうに話す智くんは、仁美さんの願いどおり誰からも愛されるキャラクターに成長している。

能瀬家の次男として生まれた智成君（智くん）は、知的と身体に障がいがあり、現在、精道中学校に通う３年生。

生後２カ月のころに脳内出血を起こし、８時間におよぶ緊急手術で右脳を全摘出。術後10日目にして奇跡的な生還を果たしました。仁美さんは、退院時に医師にかけられた言葉を今も大切にしています。

「退院してからいろいろと大変なこともあると思いますが、お兄ちゃんと同じように育ててあげてくださいね。」

仁美さんは障がいのある人への差別は本人と他人だけの問題ではなく、親子間でも起こりえるものだと言います。

「もし親子の間で目に見えない差別（心の中での壁のようなもの）があれば、その子はとてもつらい思いをすることになると思います。ですから、私はお兄ちゃんと同じように褒めるときは褒める、注意するときは注意する。障がいがあるから特別ではなく、手助けが必要であったり、人より時間がかかることを理解した上で、精神面ではお兄ちゃんと変わりなく、智成ができることをどんどん増やし、より生きやすくなるために選択肢を増やす手助けをするように努めています。

たまに、障がいのある子の保護者のかたから『この子は障がいが重いから、何もできずにかわいそう』という話を聞くことがあります。私は智成のことをかわいいとは思いますが、かわいそうと思ったことはありません。今の状況を受け入れ、より生きやすくするための努力を一緒にしようと思います。

障がいがある子に対して親が特別視せずに、障がいをその子の個性として受け止め理解し接することで、周りの人に対し、その子の話をするときに自然と差別のない形で伝えられるのだと思います。」

智くん曰く、学校生活は友達もたくさんいて特に困っていることはないとのこと。精道小学校時代からの友達も多く、自分のことを知ってくれているので楽しんで学生生活を送っています。

「今はね、音楽の授業でみんなと歌をうたうことが楽しいんだよね。」
と笑顔で話す智くん。

仁美さんが学校生活での智くんを見ていて思うことは

「芦屋市では、インクルーシブ教育（※）を推進しているので、智成が困っている様子に気づくと手助けをしてくれたり、授業が受けやすいように教室での智成の位置を考えてくれたりする友達がいて、自然と障がいがある子への配慮ができる子供が多いような気がします。意外と大人の皆さんのほうが、障がいのある人を見かけた時に、接し方に戸惑い身構えてしまうのかもしれません。そんな時は、お互いに挨拶をするなど簡単な言葉を交わすことから始めてみてはどうでしょうか？障がいのある人が、手助けをしてほしいことを周りに伝え、その事に気が付いた人が自然と助ける。そんな温かい社会になってほしいです。」

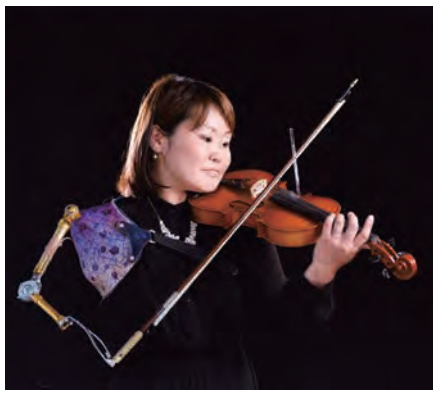
**※【インクルーシブ教育】**
**障がいの有無にかかわらず共に学べる仕組み。障がいのある人が排除されることなく、合理的な配慮のもと、地域で教育の機会が提供されること。**

---

**日々の生活と人権を考える集い２０２０**

## 講演会「あきらめない心」

■**日時**　12月５日（土）午後１時30分～３時（１時開場）
■**会場**　福祉センター３階多目的ホール
■**内容**　講演「あきらめない心」・バイオリン演奏
■**対象**　市民200人



■**講師**　伊藤真波さん（日本初義手の看護師、北京・ロンドンパラリンピック競泳日本代表）
※手話通訳あり
■**申し込み**　電話で下記へ

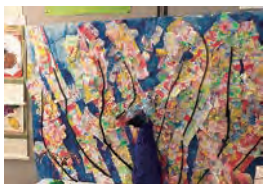
**問い合わせ**
**人権・男女共生課　☎38-2055**

---

**第13回芦屋市障がい児・者作品展**

## 「ぼくら 私たちアーティスト」 ～コロナに負けずに輝いて～

■**日時** 12月２日～８日
午前９時30分～午後５時
■**会場**　芦屋市保健福祉センター１階エントランスホール
木口記念会館１階交流ホール



**問い合わせ　芦屋市障がい者基幹相談支援センター**
**（保健福祉センター１階）☎31-0739/FAX32-7529**